

第25回 令和2年度職業訓練教材コンクールの総評

職業訓練教材コンクール審査委員長

1. はじめに

厚生労働省、（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構、中央職業能力開発協会の共催によって行われる第25回令和2年度職業訓練教材コンクールでは、人材開発の推進や向上に資する目的のもと、訓練指導技法の技術・技能水準の向上と人材開発関係者などの意識啓発のため、応募教材作品から優秀な職業訓練教材作品を選定し、その成果をたたえ、広く人材開発関係者などへ周知広報・普及してまいります。

応募の対象は、人材開発に携わっている方々などから、各現場や実践する場面において日々の「創意工夫」により開発した「教科書」や「映像・シミュレータ」などの様々な教材であり、原則としてオリジナル教材であって、実際の職業訓練に使用したもの又は使用する目的で制作・開発されたもので、公の場で未発表の教材となります。

職業訓練教材コンクール審査委員会は、「訓練指導時の当該教材使用による訓練実施効果の向上が見込まれる」などの審査観点に基づいて、応募作品から、「コンクール」として優秀な教材作品を選定しました。

2. 応募の状況

今回の応募教材作品数は108件で、前回の平成30年度と比較して16件の増加となりました。この応募件数は、昭和49年度の第1回職業訓練教材コンクールに次いで過去最大です。コロナ禍で全国の職業訓練施設等が補講対応等に追われ応募が難しい状況と見えた一方で、まさにその対策としての自宅学習を考慮した職業訓練担当者の活動が加わり、応募件数の増加に貢献したものと思われます。職業能力開発の充実に向けた、関係者の臨機応変で柔軟な対応力と、積極的な姿勢がうかがえる結果となりました。

応募件数の所属内訳は、都道府県立の職業能力開発施設等から14件、民間の認定職業訓練施設等から10件、（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構の職業能力開発施設から84件となりました。前回に比べると、どの所属も同程度の割合で応募が増えました。

教材作品を主な分野別に整理すると、生産・機械関係分野28件、産業機械・メカトロ関係分野11件、電気関係分野12件、電子関係分野11件、情報関係分野13件、建築・木工・デザイン関係分野19件、障がい者関係分野5件、その他の分野9件となりました。前回に比べて目立って増えた分野は、生産・機械関係分野が10件増、産業機械・メカトロ関係分野が5件増、建築・木工・デザイン関係分野が4件増、その他の分野が4件増となっています。

応募のスタイルについても、今までのような冊子、電子データ、実物モデ

ルを配送して応募された教材作品のほか、インターネット上でログインし閲覧するオンラインタイプの教材作品が数件ありました。オンライン教材は、その一部において一定の環境では適切に閲覧できない場合もあり、ITやネットワークを本格的に活用するこれからの時代に向けた審査上の工夫を要するようになったと感じております。

3. 審査の講評

令和2年度の職業訓練教材コンクールには、上記の通り108作品という多数の応募がありました。

特に本年度は、移動や対面での活動への制限が課される中でも、情報通信技術の成果を活用した継続的職業訓練の機会を保証し、電子的文書や動画を活用し、訓練生の理解を促進する工夫をこらした作品が複数見られたことが印象的でした。人材開発の推進や向上に向けた御関係者が、社会情勢の変化に敏感で、柔軟な適用力と積極性をもってお仕事をされていることが感じられました。

特に、厚生労働大臣賞（特選）を受賞した作品「遠隔訓練も可能となる射出成形金型設計教材」は、金型設計という、これまで物理的な訓練環境のもと、直接の対話指導を通じて効果を上げるとされてきた訓練課題を取り上げています。現下の世界的に困難な社会情勢においてオンライン遠隔教育が求められる環境の下でも、普及の進んだ情報通信技術をうまく活用し、職業訓練を効果的に進める道を具体的に切り開く、先導的かつ完成度の高い教材の姿を示してくれています。

その他の入賞作品や、あるいは惜しくも入賞を逃した作品の中にも、高い評価をされたものが数多くありました。わが国の職業訓練に御尽力いただいている応募者の皆様の層の厚さ、教材としての完成度の高さを感じることができました。

御関係の皆様には、今回の受賞作品を参考に、今後の新しい生活様式や職業のあり方の時代のさらなる変化を的確に捉え、時代の変遷とともに革新すべきこと、時代を通して変化せぬ普遍的価値、この双方にバランスよく目を配りつつ、継続して研鑽を積んでいただけたらありがたく存じます。

今回、疫病対策で活動に制限が加わった困難な状況の中で、新たな課題への対応も念頭に置いた挑戦を含め工夫を凝らし、熱心に御応募いただきました皆様方にお礼を申し上げます。次回以降の職業訓練教材コンクールにおきましても、さらに多くの方々から作品を応募していただくことを期待し、総評とさせていただきます。